

<b>初等教科教育法（音楽）</b>	担当教員	単位数	授業形態
	田中陽治	2	e-Learning

## I 学修の概要

音楽科教育の歴史の変遷を踏まえながら、必修教科としての音楽科の存在の重要性を理解するとともに、学習指導要領に示された目標や内容の全体像をつかみ、2領域（表現3分野・鑑賞）の指導事項、具体的な授業の在り方について具体的に考える。その際、「曲で教える」という基本的な構えをしっかりと理解し、その土台となる共通事項の各内容や題材構成による指導の重要性などについて説明できる。

## II 学修到達目標

- (1) 音楽科教育の歴史の変遷について理解し、必修教科としての存在意義について説明することができる。
- (2) 学習指導要領に示された音楽科の内容の全体像について理解し、説明することができる。
- (3) 音楽科教育を推進するにあたっての音楽的な基盤となる題材構成の考え方と共通事項について説明することができる。
- (4) 歌唱領域の3つの分野（歌唱・器楽・音楽づくり）及び鑑賞領域について、学習指導要領に示された内容と低・中・高学年の系統を理解するとともに、教科書に取り上げられている教材を用いた模擬授業の録音音声を聞きながら解説を読んで、それぞれの分野における授業の在り方について説明できる。
- (5) 芸術作品としての一つ一つの楽曲について、共通事項等の視点からその特徴、よさ、味わい、魅力が分析できる。（それが毎時間の授業の充実と「題材構成によるの指導」構築の土台となる）

## III 目的

小学校学習指導要領（音楽）を理解するとともに、音楽科で指導する表現領域（歌唱・器楽・音楽づくり）と鑑賞領域の指導についての考え方とその内容について理解することができる。

## IV 小中連携教育コーディネータに必要な資質・能力

- (1) 学習指導要領の目標や内容を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。
- (2) 小・中学校9年間の指導内容の系統性、子どもの実態を踏まえて指導計画を作成することができる。
- (3) 教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。
- (4) 教科の専門性を踏まえて、一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導。援助を行うことができる。
- (5) 音楽科が必修教科であることが、一人一人の豊かな人生の創造につながることを説明することができる。
- (6) 学校行事等における「音楽活動」と「音楽科学習」の違いを理解するとともに、必要があれば双方の目指すところを踏まえて融合し、指導計画に位置付けることができる。

### 第1講 学校教育に音楽科が存在することの意味、意義

#### 1. 概要（何を学ぶか）

音楽科・特別活動・特別な教科「道徳」に示された音楽に関わる内容を理解した上で、楽曲分析を通して「歌える、演奏できる」ではなく音楽的な力を身に付けることこそが重要であることを学ぶ。

#### 2. 学修到達目標

- (1) 教科としての音楽科の存在と、特別活動における「音楽活動」の取り組みや道徳の「感動」の項目にかかわる学習との違いを理解することができる。
- (2) 歌唱教材を、いろいろな角度から分析し、リズム、旋律などとの音楽的な要素という視点をもつことによって音楽科学習が成立することが理解できる。

#### 3. 追究トピックス

歌唱教材「ふじ山」について音楽的に分析し、歌えるようにした上でどのような指導ができるかを楽譜に記入し、整理しなさい。

## 第2講 音楽科教育の歴史の変遷から、教科としての存在を考える

### 1. 概要（何を学ぶか）

学制が施行されてから戦前までの音楽科教育の流れを理解、整理するとともに、芸術として音楽美を追究する戦後の音楽科教育との大きな違いを理解し、音楽科教育の本質についての考え方を学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 明治以降の音楽科教育（当初は「唱歌科」の歴史的な変遷について理解することができる。
- (2) 戦後示された「音楽科教育の理念」から、教科の本質について理解することができる。

### 3. 追究トピックス

昭和22年に学習指導要領《試案》の中で示された、「今後の音楽科教育の理念」を精読し、理解した上で、自身の音楽科教育に関する考え方について、現在行われている音楽科教育（音楽活動）の実態も踏まえながら整理しなさい。

## 第3講 小学校学習指導要領（音楽）の理解

### 1. 概要（何を学ぶか）

学習指導要領に示された内容を理解し、表現領域（歌唱・器楽・音楽づくりの3分野）と鑑賞領域の指導事項及び「指導計画の作成及び内容の取扱い」に示された各内容について、要点をまとめ理解する。

### 2. 学修到達目標

- (1) 学習指導要領に示された音楽科の内容の全体像について理解することができる。
- (2) 「指導計画の作成及び内容の取扱い」に示された各項目の内容について理解することができる。

### 3. 追究トピックス

- (1) 学習指導要領に示された音楽科について説明しなさい。
- (2) 音楽科における「表現技能」の扱いについて説明しなさい。

## 第4講 題材構成の考え方についての理解

### 1. 概要（何を学ぶか）

小学校4年生の題材を例に、どんな音楽的な力を身に付けるために、どんな曲でどんな指導を積み重ねていくように教科書が構成されているかを理解し、音楽科における題材構成による指導について学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 題材構成による指導の具体と意味について理解することができる。
- (2) 「教材を単独で教える」とこととの違いについて説明することができる。

### 3. 追究トピックス

例として示した題材とその解説を理解した上で、2社の音楽科教科書（教育芸術社・教育出版）において、題材構成の考え方のもとに、指導事項がどのように扱われているかを確認しなさい。

## 第5講 共通事項についての理解

### 1. 概要（何を学ぶか）

学習指導要領及び同解説に示された「共通事項」の考え方及びそれぞれの要素について理解し、教科書にまとめられた内容を見て実際に活動したりしながら、実践的に学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 共通事項に示された内容について、学習指導要領及び解説をもとに理解することができる。
- (2) 教科書に児童用に示された共通事項に関する内容から、感覚的な理解につなぐことができる。

### 3. 追究トピックス

自分の好きな音楽（ジャンルは問いません）の中から1曲を選び、共通事項に示されているそれぞれの要素・仕組みの面から、その曲の特徴やよさ、魅力を分析しなさい。

## 第 6・7 講 歌唱表現の指導事項と指導の実際について

### 1. 概要（何を学ぶか）

歌唱分野に関する学習指導要領の内容を、学年による系統も含めて確認し理解するとともに、実際の歌唱指導の在り方について模擬授業の録音を聴き、整理することによって学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 歌唱分野で指導する内容とその系統（低・中・高学年）について理解できる。
- (2) 模擬授業の録音を聴いてその内容を整理し、身に付けたい力にどのようにアプローチしているか説明できる。

### 3. 追究トピックス

模擬授業で行った曲（ゆかいに歩けば）の指導記録を生かしながら、「つばさをください」（6年生教材）の特徴、よさ、魅力を分析し、指導展開を作成しなさい。

## 第 8・9 講 器楽表現の内容と指導のポイント

### 1. 概要（何を学ぶか）

器楽分野に関する学習指導要領の内容を、学年による系統も含めて確認し理解するとともに、実際の器楽指導の在り方について模擬授業の録音を聴き、整理することによって学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 器楽分野で指導する内容とその系統（低・中・高学年）について理解できる。
- (2) 模擬授業の録音を聴いてその内容を整理し、身に付けたい力にどのようにアプローチしているか説明できる。

### 3. 追究トピックス

- (1) 楽曲「生命のいぶき」の演奏を聴いて覚えるとともに、模擬授業の録音を聴いて、「どんな音楽的な力を身に付けさせようとしているか」をまとめなさい。
- (2) (技能) リコーダーパート（上から2段目）を練習した上で、このパートの音だけ抜いて作成してある音源に合わせて自分で演奏しながら、この曲で身に付けたい力を実感してください。

## 第 10・11 講 音楽づくりの内容と指導のポイント

### 1. 概要（何を学ぶか）

音楽づくり分野に関する学習指導要領の内容を、学年による系統も含めて確認し理解するとともに、実際の音楽づくりに関する指導の在り方について、教科書で扱われている内容の模擬授業の録音を聴き、整理することによって学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 音楽づくり分野で指導する内容とその系統（低・中・高学年）について理解できる。
- (2) 教科書で扱われている内容に関する模擬授業の録音を聴いてその内容を整理し、どんな音楽的な力を身に付けるためにその活動に取り組むかが説明できる。

### 3. 追究トピックス

- (1) 録音の3種類の音楽づくり模擬授業の録音を聴き、その学習活動で身に付けようと意図している音楽的な力を整理しなさい。
- (2) 模擬授業で示した内容を生かし、「ラバースコンチェルト」の副次的旋律づくりに取り組み、この曲の二重奏曲を作成しなさい。

## 第 12・13 講 鑑賞の内容と指導のポイント

### 1. 概要（何を学ぶか）

鑑賞領域に関する学習指導要領の内容を、学年による系統も含めて確認し理解するとともに、実際の鑑賞活動に関する指導の在り方について、教科書で扱われている内容の模擬授業の録音を聴き、整理することによって学ぶ。

### 2. 学修到達目標

- (1) 鑑賞曲を聴かせるという学習活動にどんな意味、価値があるのかについて説明できる
- (2) 曲の持つ特徴、よさ、味わいを共通事項等を視点に分析し、どんな音楽的な力を身につけるのかを明確にした指導計画が作成できる。

### 3. 追究トピックス

- (1) 最後に示した「4曲を関連づけた鑑賞指導」について、模擬授業の録音を聴いて整理するとともに、関連づけたことによって子どもたちに身に付く音楽的な力について整理しなさい。
- (2) クラシック系の曲1曲とジャンルを問わない1曲、計2曲を自分で選び、それぞれの曲について、音楽の授業で取り扱うとしたらどんな指導をするか、模擬授業の例や解説を踏まえて作成しなさい。

## 第14・15講 教材（楽曲）分析の実際

### 1. 概要（何を学ぶか）

「ビリーブ」（5年生教材）の詳細な教材分析とその解説を元に、分析の一方法と内容を理解するとともに、「音楽を作り出す要素」として発表された論文の内容を知り、自らの分析に関する感じ方を広げる。

### 2. 学修到達目標

- (1) 楽曲のもつ特徴、よさ、味わい、魅力を音楽的な要素をもとに分析し、洗い出すことができる。
- (2) 共通事項で触れられていない要素を含む学説も理解することで、より幅広い楽曲分析に取り組むことができる。

### 3. 追究トピックス

教材「つばさをだいて」を楽譜・音源を通して覚え、そのよさや魅力等について楽曲分析する。